

『ヘッポコの爺ヶ岳山行報告』

菅野靖司

天候の安定した 2 日を利用して 4 月 28 日（日）～29 日（月）で山行しました。柏原新道からの入山に備えて 27 日（土）夜から扇沢橋駐車場に車中泊。小さい駐車場へゴールデンウィークと重なり深夜に到着した時には残り 2 台の空きでした。

4 月 28 日（日）登山口で登山届けを提出し 5 時出発。いつもこの時期に登山口に常駐している長野県山岳会登山相談所の方々によりリアルタイム情報が頂けるのが心強い。本当にありがたいです。夏道から取り付きしばらくすると尾根伝いの冬道に入ります。トレースがしっかり着いているので道迷いは大丈夫ですが、木の枝がザックに引っかかり苦労しました。このルートをスキー板担いで登るシルバー世代の団体さんが居ました。元気“ですね！森林限界を越え今晚の幕営地を探しながら南方を目指しました。標高 2500 メートル付近にハイマツの横に幕営地をみつけザックをデポ。軽装備にて南方到着。曇り空ながら 360 度のパノラマが見渡すことが出来ました。中峰へピストン。中峰へは昨年 3 月以来の登頂です。早々に幕営地に移りテント設営。風下にテント入口をも置けると滑落しそうなので風上の西側へ入口を向けて設営。夕方には 3 張りとなっていました。夕方、山岳写真家の菊池哲男さんと出会いました。アシスタント 2 名の方々と入山されていました。

夕日は望めないかな？と思ったら雲の間からの面白い夕日を見る事が出来ました。

4 月 29 日（月）13 時信濃大町待ち合わせ時間に合わせの為 6 時過ぎに下山開始。重いザックが疲れた足に辛い！何とか 10 時頃に下山。大町温泉郷薬師の湯（今年 ¥100 アップ ¥700）にて汗を流し山行終了。『爺ヶ岳から針ノ木岳までを何時登るか？』楽しい瞑想時間を過ごし至福の時間を過ごしました。





燧ヶ岳 2,356m

2019年4月28日 秋葉、下山田、渡辺敏夫、富岡

今年の4月の月例山行は、できるだけ多くの人に参加できるようにと尾瀬周辺とした。しかし、昨年より参加者が少なく残念だったが、それなりに素晴らしい山行を楽しむことができた。

前日は雨であったが山では雪が降り、御池駐車場は数cmの雪で覆われていてかなり寒い状態であった。昨日より来ている渡辺さんは既に出発していた。

シールを付け出発し、熊沢田代の登りにかかるとクラストした上に湿雪が被りスリップし易いのでスキーアイゼンを着用し登る。富岡さんはスキーアイゼンを持ってこなかったのでスキーを背負って登る。私と下山田さんは先行して熊沢田代で待っていたが、中々来ないので心配になった。戻ったのであろうと判断し、先に進もうとしたら姿が見えホッとした。



広沢田代には迂回して登る。平ヶ岳から越後駒、守門岳等の越後の山々が白銀に輝き素晴らしい展望である。

下山田さんと富岡さんはここから戻ることにする。ここからは1人で登る。渡辺さんと会うかなと思っていたが会えなかった。

例年、頂上は岩が大きく露出しているが、今年は雪が多く山頂の祠付近が僅かに出ている程度であった。

眼下に尾瀬沼、尾瀬ヶ原。至仏山、飯豊、吾妻、磐梯山、安達太良、那須・甲子、日光、越後、会越国境の山々が見える。なんと！うっすらと富士山も見えるではないか。

360度の展望を愛でながら1人寂しく乾杯をする。

30分ほど休憩し、滑降に入る。頂上直下の無木立ちの大斜面は雪質も良く快適な滑りであった。

熊沢田代からスキーを担いで登り返す。ここからは樹林



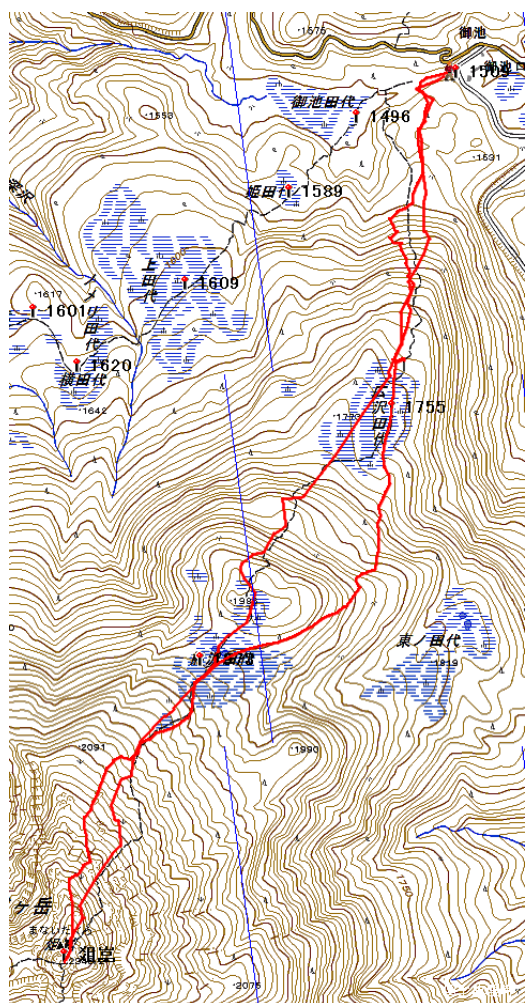
笠ヶ岳

至仏山

尾瀬ヶ原

柴安嶺、

(燧ヶ岳頂上、俎嶺から)



帯の急斜面。気合を入れて滑り出すが、それまでとは雪質が変わり、踏み跡の所は滑るが新雪に入ると雪質が重く途端にブレーキがかかってしまう。用心して滑るが…、毎年楽しみにしている斜面、一番美味しい所で新雪にスキーのトップが刺さり大転倒。

スキーが外れ、頭を下に10m程滑落。ストック1本はかなり上、スマホは下の方へ飛んでいる。幸いに怪我はなかった。

スキーを履き直し階段登高で登り返しストックを取る。久しぶりの大転倒で見ている会員がいたらさぞ喜んだであろうと思うが、残念ながら1人行動であった。

御池に着いても、先に降りているはずの渡辺さん、下山田さん、富岡さんがいない。どうしたものかと思っていると約1時間後に3人が到着した。広沢田代で合流してその後一緒に行動したということでした。

富岡さんは山スキーのデビューで登りも下りもかなり苦労して、脚も吊ってセラバンドの世話になるなど散々な思いをしたようです。

でも、それを繰り返して、快適な滑り、山スキーの爽快感を感じることができるようになるのです。誰もが通った道で、あきらめずに、グレンデのレッスンと山での実践を

繰り返すこと。難しいからこそ楽しみ、喜びも大きなものになると思います。

皆さんも山スキーの世界に入りましょう。

コースタイム 水石トンネル駐車場 5:00⇒白河⇒甲子トンネル⇒桧枝岐 7:30⇒御池 8:00

登り 御池 8:20⇒広沢田代 9:40～10:30⇒熊沢田代 11:40～12:05⇒俎嵯 13:00

下り 俎嵯 13:30⇒熊沢田代 13:40⇒ 広沢田代 13:55⇒御池 14:10
(文責：秋葉)

八 溝 山 1,022m

2019年5月4日

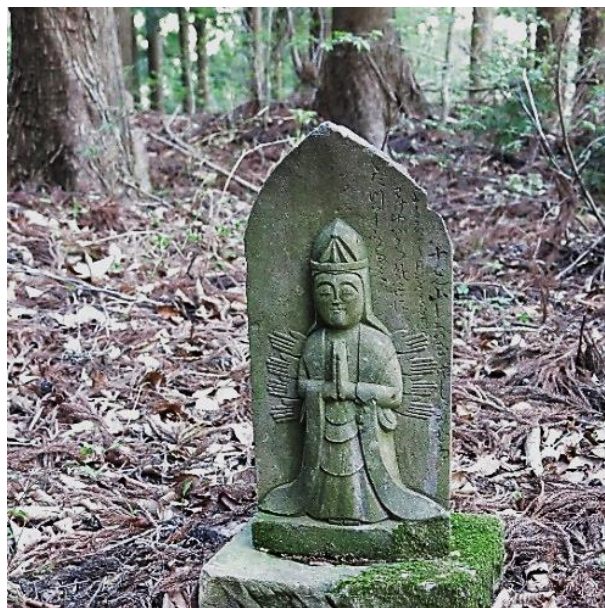
秋葉信夫

八溝山は福島県、栃木県、茨城県の3県境に位置し、頂上まで車道が通じているので、栃木県大子町から車で行く人が多い。しかし、それでは勿体ない。鹿ノ又コース、大神宮山から大笹山コース、茗荷コース、大梅八溝嶺神社コースなど、歩いてこそ楽しいコースがある。

昨年は茗荷コースを歩いてとっても素敵なところだったので、今回は大梅八溝嶺神社コースを歩いて見ました。石仏が癒してくれる素敵な路でした。是非皆さんも歩いて見て下さい。



新・分県登山ガイドには、「歩行距離 23 km、歩行 9 時間 35 分」と書いてあるので、長丁場を覚悟し、前日は棚倉町の赤館公園に車中泊し登山口の大



梅八溝嶺神社に向かった。

神社の横の藪気味の路を進むと杉の植林地、樅の木や子ならシデなどに変わりやがてイヌブナも出て来て、最後まで緩やかな登り、気持ちの良い雑木林の中を歩く。

道端に石仏が現れ、心が和まされる。数えてみると 11 あった。古からの信仰の路であったことが伺われる。

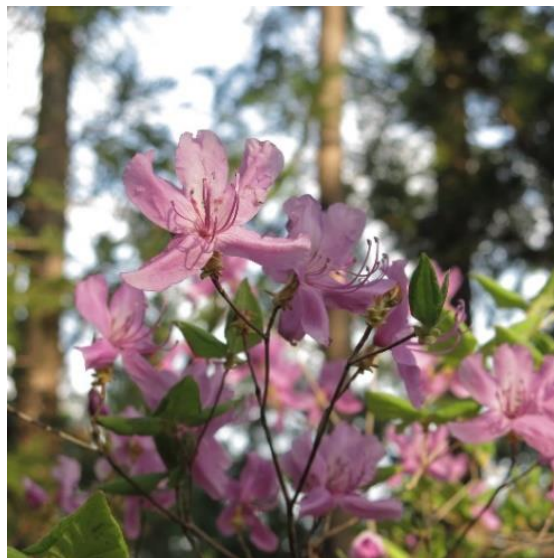
トウゴク三葉ツツジが見事であった。カタクリの咲き始め、イヌブナの新緑の葉の産毛が陽に照らされて白銀に輝いている。コシアブラ等もあり、実に気持ちよく歩くことができました。頂上までは行かずに高笹山分岐で引き返しました。

先に引用した距離・歩行時間は往復のデーターの用に思われます。

コースタイム

登り 登山口 5:00→茗荷分岐 9:30 3 時間半

下り 高笹分岐 9:50→登山口 11:20 2 時間半



荒海山（1581m）

4月27日（金） 渡辺（敏）

荒海山の八総鉾山跡登山口は、がけ崩れのため通行禁止になっているので、利用できない。いろいろな山行報告を読んでいると、館岩側の戸坪沢からルートがあると書いてあった。そこで、このルートから荒海山に行ってみることにした。番屋の戸坪沢入り口に広いチェーン着脱所があり、反対側に記念植樹した広場と材木切り出し所がありそこから林道が伸びている。入り口にはこの登山道を利用しないよう注意書きがあるが、注意しながら入山した。二本目の沢を渡った先が目指すルートだが、



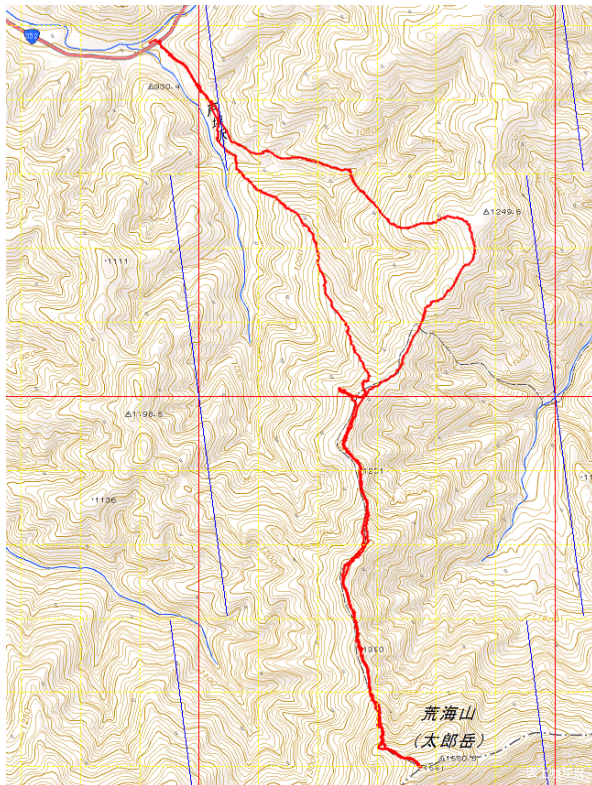
1249m 峰近くの稜線にはマーキングがある

沢沿いに行けばそのルートに行けると思い、沢の右岸沿いに遡った。しかし、目的の尾根からどんどん遠ざかってしまい、あきらめてこの尾根を進むことにした。斜面が急で雨が降った後で滑りやすいので登るのに難儀であった。尾根を詰めると 1249m 峰の手前に到着、稜線の尾根に出た。稜線の尾根沿いには所々にマーキングがあっ

た。しばらく進むと八総からの登山道に合流した。アップダウンを繰り返して山頂の手前まで来ると、雪のついた急斜面が現れる。頂上付近は積雪量が多そうだ。慎重にステップを切りながら登ると、ほどなくして山頂に到着した。朝方まで雨が降っていたが、天候は薄日も差し風が強いがまずまずである。しかし、天候が回復すると期待していたが、3時過ぎから雪が降り出して悪くなるばかりであった。最初に予定していた尾根から下山しようとしたが、登山道からその尾根を見つけるのに苦労した。戸坪沢からははっきりとした登山道で、マーキングがかなり頻繁につけられているので迷うことがない。下山途中でクマに遭遇、この辺りはクマの生息域である。最初の登りからこのルートを見つければ難儀しなくて済んだ。しかし、道のないルートもたまにはいい。

コースタイム

番屋戸坪沢入り口 8:43→入口の沢 8:51→1249m 峰 10:23→登山道 10:45→山頂 13:14
13:40→尾根分岐 15:22→登山口 16:27



文責：渡辺敏夫

「会津駒ヶ岳」

2019年5月29日(月)

参加者 秋葉、渡辺(敏)、下山田、栗崎(透)

4月の降雪と低温で今年の会津駒ヶ岳はたっぷりの残雪。

去年は、滝沢の登山口まで車で上がれたが、今年はテニスコートからスキーを背負って歩き出す。

スキーは重いし、スキーブーツでの登高はとても歩きづらい。

どうしてこんなことをするんだろう・・・

ただ雪が多い今年は、営林署の看板から雪が繋がっていた。

去年は水場までスキーを背負ったのだから、我ながらあきれた。
しかし、標高が上がるにつけて、周りの景色が見え出すともういけない。
空の青と雪とシラビソの緑が、登りの辛さを感じさせない、のはうそだが、気分は最高だ！
何度も登っている斜面なのに、こんなに楽しいのはなぜなんだろう？

ほどなく、小屋に到着すると、秋葉さんと渡辺さんは山頂詣でに、私は小屋番さんとの談笑を楽しみに、ここを今日の山頂とした。

さて、いよいよお楽しみの滑降といきたいところだが、まだまだ下手くそな私には、実は登るよりも疲れる。
それでも、小屋から 1 時間ほどで、雪が繋がっていた登り口の階段裏まで滑り降りた時の達成感はどうしようもなく癖になる。
だから、またコテンパンにやられても、やめられない。

(文責 栗崎 透)

「大荒沢～拇峰へ」

2019 月年 3 月 19 日(火)

山名 拇峰(H1541.3m) (米沢と喜多方にまたがる)

参加者 秋葉、渡邊(敏)、馬場、栗崎(透)、栗崎(容) 計 5 名

形態 山スキー

昨年の 4/17 に出かけ、進みすぎた雪解けに苦戦して途中敗退した拇峰。

今回、ひと月ほど時期を早め、リベンジに出かけました。
とはいえ今年も暖冬気味&降雪少なめ…ということで心配しましたが、登山口から十分な雪があり、最初からスキーを履いて登ることができました。



7:40 大荒沢近くの駐車スペースを出発。作業用の林道を進みます。昨年はこの林道のスタート地点を見落とし時間を食いましたが、今回はバッチリ。ただし、つづら折りの林道には上段の林道からのデブリがたっぷりありました。



8:08 林道が終わり、尾根に乗りました。程よい樹間で若いブナとアオモリトドマツが立ち、気持ちのいい林です。ほどなく H810m のピークが現れます。立木がほとんどなく、下り時には気持ちよく滑れそうな大斜面。当然しっかり登らされ、みんな一気に汗をかきます。そしてそのご褒美のように北方には存在感大きな朝日連峰、奥には月山らしき姿が見えます。さらに気持ちのいい若いブナの森を進むと、積雪によって細尾根感が増したような尾根を進みます。さらに斜度が急になり、スキーアイゼンを装着。それでも登りにくい斜面もあり苦戦しました。

細尾根もひと段落つき、少し広くなった尾根に登り、
11:06 馬場さんと共に、標高 1,131.9m、三角点のある小ピークに到着。ここでは栗崎が待っていてくれ、秋葉さん・渡辺さんは樺峰ピストンに行ったと聞きます。しばしここで休憩し、11:37 栗崎、馬場さんと私の 3 人は下り始めました。極細尾根の急斜面は滑るところか、板でで刻んで下りました。そして上から滑り降りて来る秋葉さんと渡辺さんが見つつけやすい平らな場所を探して昼食をりながらお二人を待ちます。ほどなく二人が到着。樺峰の山頂に取り付く手前に崖があり、さらにその先には大岩が立ちはだかり、スキーで山頂まで行くのは無理だったとのこと。そして、もし次回行くとしたらアイゼン・ピッケルが必要・・・とのことでした。

13:20 全員揃い、下山滑降開始。段状の斜面や登り返しの斜面も多く、気持ちよく滑る・・・という感じではなかったですが、最後の大斜面は皆さん気持ち良さにそれぞれのシュプールを描きながら滑り降りていました。そして往路通りに林道を下り、14:30 駐車ポイントに帰着。

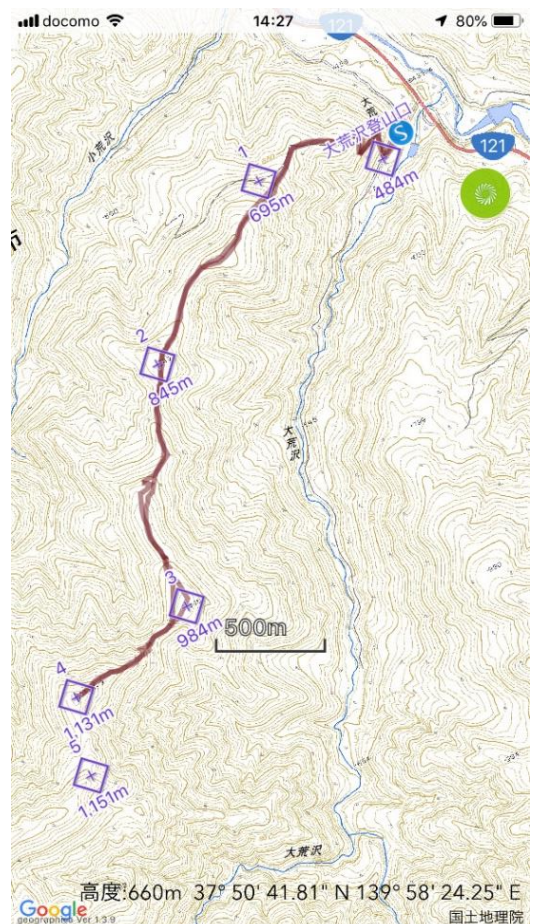
残念ながら全員リベンジとはなりませんでした。隣の飯森山といい、この樺峰といい、標高は 1600m に満たない山ですがなかなか簡単には登らせても、滑らせてももらえません。もう少し精進しないと！

(文責 栗崎 容子)

拙いブログですが、今回の山行のレポもアップしています。良かったら覗いてみてください。

「大荒沢～樺峰リベンジ・山スキー」

<https://blogs.yahoo.co.jp/cordonipfs/64831932.html>



石城登山教室 5月山行『五頭山』報告書

2019年5月12日(日)

この山は、某公共放送の番組「新日本風土記」「こころ旅」などで知っていましたが、近い将来に行くことはないだろうと思っていたところ、登山教室の山行入りしていたので楽しみでした。

「五頭連峰のほぼ中央に位置する。連峰中では、南西にある標高 974m の菱ヶ岳、北東にある標高 954m の松平山に次ぐ高さである。峰が五つあることから五頭山と名づけられた。809 年に弘法大師によって開山されたと伝えられる。」

※出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

山麓の出湯温泉も弘法大師様が杖をついたかどうかはわかりませんがよいお湯でした。

【登山口～扇山分岐】8:30～9:30

旧スキー場コースより登山開始。

移動中の車窓からは曇り空もありましたが、到着してみると予報通りの快晴で足取りも軽く感じます。

長い急登もなく、新緑の木立の中、大変涼しく快適な登りで汗を流します。途中たくさんの花が咲いており、CL 秋葉さんをはじめ山の植物に詳しい方の説明を拝聴して楽しみながら快適に高度を上げていきます。たくさんの花の名前を教えてくださいましたが、覚えきれないのが私の残念なところでした。



【五ノ峰、四ノ峰】11:00-11:30

振り返れば眼下には越後平野のナイスビュー。黄砂か春霞か、この時期らしい視程でしたが、日本海に近いことで高低差が感じられ、なかなか迫力のある眺望です。いわき近隣の山頂から太平洋を望む感じに似ているかも。きっと夕暮れ時はきれいなことでしょう。視程良ければ佐渡まで見渡せるということですから秋ごろなんかはねらい目かなと思いました。

【三ノ峰】11:40

ここで昼休憩でしたが、欲の深い方たちとともに二、一ノ峰を目指したため眺望はわかりません。ただ、どの峰にも鐘とお地藏様が置かれていましたから、ここにもあったことでしょう。

避難小屋もあるので、他の峰より直射日光をしのぎやすく休憩するにはよい場所かもしれません。

【二、一ノ峰】11:50-12:30

特に北東側の眺望がよく残雪の残る飯豊山の前衛峰などが見えます。7月山行予定が飯豊山なので、登頂したら五頭山も見えるのかと思うと気持ちも高まります。

私たちはここで昼休憩でした。五頭山山頂(三角点)まで行きたいところでしたが、時間的に厳しいので断念です。上遠野さんから頂いた新鮮なトマトや豆がさっぱりとして美味しかった。山で頂く野菜くだものは格別です。

【下山】 12:40-14:10

三ノ峰コースより下山です。途中「長助清水」の札がある休憩ポイントがありましたが、皆さん十分な水量を携帯してきたのか、だれ一人給水することなく小休憩して下山再開です。新緑のブナ林トンネルを気持ちよく下りました。

【感想】

改元後初の無雪期登山でしたが、所持道具のチェック、教室で培った知識や技術を使わせて頂くことで自身の成長？も感じられ、よいウォーミングアップになりました。機会があれば菱ヶ岳や松平山を周回したいと思います。



(文責 登山教室 猪狩)

「月山」(1984m)

2019年5月6日(月)～7日(火)

下山田、秋葉、馬場、栗崎透、栗崎容子



連休後半、6日に7, 8日お店が休みとなった栗崎さんたちと、鳥海山を挙げていたが2泊3日では行けそうもないので、月山を目指すこととした。

5時水石トンネルの集合、出発。上山まで高速が繋がった



たので福島、米沢、山形 JCT から山形自動車道を経て月山 IC でおり姥沢(月山スキー場)に向かう。駐車場では500円の協力金(夏場は登山者への協力金確か300円だったと思うがリフト前で受付がある)の要請あり。駐車場には、トイレ、更衣室があり喜んで応じた。

準備を済ませ出発するが、約1年以上重い荷物を背負って無く肩に食い込み天候に恵まれ、数メートルで汗だくになるが除雪終了地点からリフト乗り場まで板だけであるが雪上車が待機して運んでくれた。(感謝感激)



余分な水分を出しリフトに乗り、降りるところで不覚にも転倒ザックの重さに起き上がれず係員に援助されてしまった。ともあれ、シーンを張り出発、しばらくは長い道のりをトラバース気味に上り始める。



牛首からは急登になってきたが、やがて旧鍛冶小屋下部から山頂手前まで雪渓が途切れ板を外すことを余儀なくされた。

重い荷物に板が増え更にきつくなり、私目の荷物を馬場さんと容子さんに持ってもらおうということになってしまいました。



が、何とかかんとか山頂到着。明日は上り返して再びここまで来るので荷物をデポし終わったところ急に雷が鳴り、雲行きが悪くなってきた。天気予報を聞くと茨城北部に雷雲で雷発生。こちらこれから更に雷が鳴る見込み、協議をし、これから行く念仏小屋までは立木も無く非難する場所もないことから日程を変更し、今日は雷を避けるため清川行人小屋に行き明日念仏小屋に行くこととして大雪城を滑ることとした。

視界も良く、雪質も滑りやすい。

滑ること 40 分くらいで「清川行人小屋到着。昨年 9 月と変わらず、薪もあった。小屋の外には水もコンコンと流れている。

ダルマストーブに火を入れ、身体を外から内から温めているうちに天気予報を聞くと明日は零下 2～4 度、風速 10m。明後日はさらに風速が 20mとの予想が入り明日は停滞せず上り返して早々に撤退する個々と決めた。夜半はかなりの雨と風に小屋が震えていた。



翌日出発時は晴れていたが徐々に風が強くなり、ガスがかかってきて、山頂に着く頃はホワイトアウト状態、風で先行者のアイゼン跡も消えてしまう。GPS が力を発揮してくれた。

デポを回収し下山開始、昨日土の見ていた山頂付近は雪、旧鍛冶小屋下まではカリカリのアイスバーン、スリップしたら下まで、慎重に慎重を重ねにスキーの履けるところまで下りていく。視界が開け

てきたのでお互いが確認でき集結することができた。

ここからスキーを履き各々華麗な恰好で駐車場脇まで滑り降りる事が出来た。天候に左右されたが貴重な体験となった。

「コースタイム」

5月6日(月)

水石トンネル 5:00ー上山經由姥沢 8:30 出発ーリフト上部 9:02ー旧鍛冶小屋跡地 11:49ー山頂小屋(デポ地点) 12:18～12:54ー清川行人小屋 13:45



5月7日(火)

清川行人小屋 6:58ー山頂小屋(デポ地点) 9:47ー牛首(スキー装着点) 10:40ーリフト上部休憩所 11:29～12:20ー駐車場 13:12

帰路、冷中、そば(2件)閉店、赤湯温泉、龍上海(ラーメン店)

にて～味噌ラーメン(遅い昼食)によ

うやくあり月事が出来帰路に就いた。(文責 下山田)



三森山655. 6m 猫鳴山320m 尾形長子さんリハビリ山行

平成31年4月20日(土)

秋葉・下山田・馬場・西・尾形夫妻・赤塚夫妻
長谷川・芳賀・渡辺(美)・小林・志尾崎

8時30分道の駅四倉出発。八茎鉱山奥の千軒平溜池へと向かう。9時、駐車場に車を停める。9時5分、千軒平溜池横の林道を歩き登山口へ。

周りを広葉樹に囲まれた溜池に光が反射し、水面がきらきら光る。

ケマン・ネコノメソウ・ヒトリシズカがひっそり咲いている。

渡渉後登山口からすぐ急登。まもなく薄ピンク色のイワウチワの群生が我々を迎えてくれた。10時分岐。

ピンク色のアカヤシオに歓声を上げ、アセビの釣り鐘型の花のかわいらしさにうれしくなり、遠くに広野の煙突・太平洋の海岸線の美しさに歓声を上げながらのぼり続ける。

10時55分手前のピーク到着。もぐもぐタイムにお菓子が飛び交い、みんなで尾形奥方が参加できたことを喜ぶ。休憩後、もう一つのピークに向かう。滑りやすい坂に秋葉さん馬場さんがその場でロープを結びトラロープをつけてくれたので、とても登りやすくなった。



イカルが鳴いてい

る。広葉樹の森が美しい。昼食

鉄塔の見えるところで、道間違えしないよう、三森山から猫鳴山へむかう看板を付けた。

猫鳴山への縦走路を分岐まで進み、林道へ。13時20分休憩後、なが〜あ〜い林道歩き。色々な種類のスミレが咲いている。エイザンスミレがとびっきり綺麗だ。

14時35分、もとの駐車場到着。菊地さんとその友人が待っていてくれた。コーラがうまい！

ニッ箭山 710m

平成31年4月21日(日)

秋葉・下山田・栗崎・長谷川・芳賀・渡辺(美)

小林・野地・草野・志尾崎

8時半、ニッ箭山駐車場に集合。鮮やかな黄色のヤマブキに迎えられ、登山道に向かう。

アカマツ林にはヒトリシズカガがひっそりと咲いている。まだキブシも咲いているのでかなり気温が低いのだろう。低木のミヤマシキミもあちこちに咲いている。ネコノメソウやエイザンスミレを楽しみながら沢コースを行く。



慰霊登山。男体山には初心者にはロープをつけてもらい登る。

ニッ箭山山頂付近ではタコブナを見た。帰りは月山新道。アカヤシオが間近に見える。

緑色の石がゴロゴロ、斑レイ岩とのこと。

月山新道には濃い緑色のウリハダカエデが多い。山桜が美しい。目覚めたばかりの小さなカエルは枯れ葉と同じクリーム色であった。14時30分下山。

